

[COMMUNION]

WEB:http://www.nskk.org/

tokyo/index.html

E-mail:comm.tko@nskkn.org

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



― 洗礼と堅信、陪餐について ―

主の食卓による養いと派遣

主教 アンデレ 大畑 喜道

2016年6月に行われた日本聖公会の総会において、祈禱書の一部改正が行われました。今まで堅信を受け

た者が陪餐することができるといことから、準備をした人々は堅信前に陪餐することが可能になりました。そして実施は2017年の1月1日からと定められました。「なんだそれがどうしたんだ」という思いを持つ方もあるかも知れませんが、それによって、堅信を受ける前の洗礼を受けた子供たちや幼児洗礼のまま

で行くのです。自分だけが救われてそれでよいというものでもありません。キリストに出会ったその喜びと生き方を通して、この世界を神が求める世界へと変えていくのです。その事を私たちは洗礼、堅信、陪餐という一連の流れの中でしっかりと自分のものとしていく必要があります。教会に集められた人々は、キリストのご生涯、受難や復活、

を受けたから堅信式を受けなくてもよいと考える人が増えるのではと思う人がいますが、生涯キリストの模範に従っていくと決心した人の考えとしては間違っています。主教が洗礼の場にすべて立ち会えるはずはありません。洗礼、堅信、陪餐という流れが続くことがふさわしいことではあると思いますが、「主の食卓による養いと派遣」ということを

実践は2017年の1月1日からと定められました。「なんだそれがどうしたんだ」という思いを持つ方もあるかも知れませんが、それによって、堅信を受ける前の洗礼を受けた子供たちや幼児洗礼のまま

で長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け



た子供たちや幼児洗礼のまま長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け

た子供たちや幼児洗礼のまま長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け

た子供たちや幼児洗礼のまま長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け

た子供たちや幼児洗礼のまま長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け

た子供たちや幼児洗礼のまま長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け

た子供たちや幼児洗礼のまま長い間、教会の交わりから離れていた人が、一定の準備の下で主の食卓にあずかれるようになります。これは日本聖公会の歴史的な出来事でもあります。今まで堅信式を受け

特集 堅信前陪餐とは

すでに陪餐を受けている人にとって堅信前陪餐が認められたと言っても、あまり関心が無いかもしれません。しかしこれは日本聖公会にとって、大きな変化の一つといえます。今回、これを契機にもう一度、洗礼、陪餐、堅信の意味を問い直し、キリスト者として生きるとはどういうことかを改めて考えたいと思います。

日本聖公会主教会 牧会書簡

「堅信前の陪餐」について

「むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かつて成長していきます。キリストにより、全体は、あらゆる節々が補い合うことにより、しっかりと組み合わされ、結び合わされて、おのこの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」

(エフエソ…4章 15・16)

2014年第61(定期)総会における協賛、そして2016年第62(定期)総会の同意を得て、日本聖公会は2017年1月1日をもって「堅信前の陪餐」の実施へと歩み出そうとしています。聖公会の長い伝統のなかで、日本聖公会が草創期から「堅信を受けた者は陪餐することができるとしてきた陪餐理解からの大きな変化となります。

ここに日本聖公会主教会の「牧会書



簡」および「堅信前の陪餐」に関わる一般原則」を全国の教会、教役者、信徒の皆様にお送りいたします。この改訂が単に目新しい変化を目指しているのではなく、主の食卓である聖餐に招かれ、その食卓を囲むキリストの体、また神の家族としてのわたしたちの教会が、ますます強められ、豊かにされるための歩みとなることを心から願うものです。

洗礼、堅信、初陪餐の準備を終えた人で、洗礼の場に主教も共にいる場合には、洗礼・堅信・初陪餐が一つの礼拝の中で行われることが基本であることは従来と変わりません。

しかし主教臨席でない場合にも、成人の受洗者は洗礼から陪餐へと進み、続く早い機会に堅信を受けること、また幼児洗礼の場合には適切な年齢で初陪餐へと招かれ、その後の成長の中で堅信を受けていくこと等の新しい道が開かれました。いずれの場合においても堅信は必要です。堅信式は信仰者の

というのが、本稿を通して皆様にお願いをしたいことです。

まず大切なことは、洗礼と聖餐の2つが「キリストがすべての人の救いのために福音のうちに自ら定められた聖餐」(祈禱書262頁)として、特に重要な意味を持つということです。この2つの聖餐の間に堅信を条件として要求するのは、主が定められた聖餐である洗礼の十全性を損なうことになりかねません。この2つの聖餐が、それぞれに、また一体として重要性を持つことはわたしたちの信仰の根幹に関わることであり、今回の変更の大きな理由と言えます。

一人の人が命を与えられ、洗礼を受けて、キリスト者として歩むこと。これは、瞬間的な出来事の寄せ集めではなく、生涯にわたる旅路です。この旅路を歩む中で、わたしたちは様々な形で養われ、キリスト者として形作られ、そして神の働きに加えられていきます。この旅路を共に歩んでくださる方が、いつもわたしたちと共におられるキリストです。

洗礼によって、わたしたちは共に聖餐を祝う共同体に迎え入れられ、加えられます。メンバー皆が集う聖餐において共に陪餐に与かり、「キリストは常にキリストにおり、キリストは常にわたしたちと共におられる」(181

頁)ことを経験した人は、世界の様々な場所でキリストと共に働くように招かれます。

キリストと共に旅路を歩むこの共同体には、その道を様々な形で歩むいろいろな人々が集っています。子どももその中の一人です。子どもも大人も、それぞれに適した仕方とそれぞれの理解や受けとめをもって、共に聖餐式に連なります。子どもの陪餐への道が開かれたことは、子どもたちが信仰の共同体の中で育まれ、教会の皆がキリストと旅する歩みを共にするということと一体でなければなりません。

今回の改正は、堅信の意味について改めて問いかけるものでもあります。従来、堅信は「道理をわきまえる」こと、すなわち知的・教理的な理解を前提とするものでした。しかし、すでに述べたように、洗礼と聖餐とはいずれも極めて宣教的な性格を持つものであり、それにあずかる人がこの世に遣わされ、み旨を行う者となる(183頁)という決意を伴います。今回改正された祈禱書は、洗礼と堅信についてこのように述べます。「わたしたちは、水と聖霊の洗礼によってキリストの死と復活に与かり、神の民として教会の交わりを迎え入れられる。そして主教に

群れが聖霊の力によってますます強められ、教会の働きとこの世界における神の愛の働きに力強く参与していくための祝福と派遣の式として重んじられるべきものだからです。

そして子どもであれ大人であれ、その人が信仰の共同体である教会の中に大切に受け入れられ、周囲の人と共に成長し養われていくことが何よりも大切です。信仰者の成長はただ知的な面だけではなく、礼拝を共にし、主キリストにある交わりを深く経験することを通してこそ可能とされます。

神の家族であり、宣教の共同体である教会が、聖霊の祝福と導きの中で、ますます「しっかりと組み合わされ、結び合わされて成長し、愛によって造り上げられて」(冒頭、エフエソ書より)いきますように強く祈り求めます。

この「牧会書簡」と共に、「堅信前の陪餐」に関わる一般原則」を全教会にお送りいたします。洗礼と堅信、聖餐という聖公会のもっとも大切な事柄に関わっています。「一般原則」をよくお読みください。尊重していただきたいと願います。不明なこと、判断に困る事態があった場合には、教区主教に必ず問い合わせられ、よく相談されますよう要望いたします。また教会の中においても、教役者のみならず、教会委員会、日曜学校はじめ礼拝に関わる諸委員、スタッフ、さら

よる祈りと按手を通して、聖霊により日々強められ、この世に遣わされる」(268頁)。現代ではこのように、堅信は洗礼と堅信が本来的に持つ宣教的使命をいっそう明確にし、主教の祈りと按手を通して派遣される強めの式であるという理解が強調されています。

本改正の実際の施行は2017年1月1日からということになっていますが、特に子どもの(初)陪餐については適切な準備の後に進行される必要があることです。これについては、「おいで子どもたち」というフォトブックが出版された他、通常の堅信より低年齢の子どもの準備のためのカリキュラムも用意されています。



教会運営上の注意点と

しては、従来の「受聖餐者」が「堅信受領者」に変更されます。従って、「受聖餐者総会」は「堅信受領者総会」になります。当初の違和感はあると思いますが、これは慣れの問題でしょう。

それよりも重要なことは、初陪餐によって堅信の意味が消えてしまわないように、教会内で洗礼・堅信・陪餐の意味についての学びの機会を持ち、受洗したすべての人が堅信へと導かれるように祈り、励まし、支えることです。

には堅信受領者総会(これまでの受聖餐者総会)等において、それぞれの教会の洗礼、堅信、聖餐、また教会教育に関わる事柄として大切に受け止め、十分に共通理解を持つてくださるようにと心から願います。

2016年10月15日

日本聖公会主教会

キリストと共に歩む旅路

今回の決断がもつ意味とは

司祭 市原 信太郎

去る6月の総会の決議によって、日本聖公会は堅信受領を陪餐の条件とする従来の祈禱書の規定を改正し、「洗礼を受けた者は陪餐することができるとしました。具体的には、①幼児洗礼を受け、学齢期(7歳程度)に達した子どもが、しかるべき準備の後に陪餐に与ること。

②洗礼を受ける成人信徒が、その当日から陪餐に与ることになります。(他教派からの移籍にも関係しますが、紙面の関係上省略します。)

しかし、これらは今回の決断の表面的な現れに過ぎず、背後にはもっと本質的な「洗礼とは、堅信とは何か」という教会の大きな問いがあります。「自分の教会には子どもがいらないから」というような理由で、今回の決議を「関係ないこと」にしないでいただきたい

「陪餐ができるなら堅信は受けても受けなくても同じ」ではありません。堅信によって強められた一人一人が、洗礼と聖餐が本来持つ宣教的な使命を自覚し、それを積極的に引き受けていくこと。このことの意味に教会全体が目覚めていく時に初めて、今回の決断が意味を持つと言えるのです。

初陪餐を受ける子どもたちのために

司祭 笹森 田鶴

来年からの堅信前の陪餐の実施に伴い、すでに洗礼を受けて、ある一定の準備を経た子どもたちが聖餐に与ることになります。この変化によって、子どもたちも当然ながら、大人たちにも改めて陪餐について子どもと共に考え、味わう貴重な機会が与えられました。そこで、ことに子どもの初陪餐に向けての備えのために、管区礼拝委員会では『おいで子どもたち―初めて陪餐する子どもたちへ』(日本聖公会刊行)を出版しました。

子どもたちは、すでに自分たちの経験や理解を通して神さまと出会い、また神さまに祈っています。子どもたちの独自の世界に大人たちが入れてもらい、子どもたちと想いを共有するためには、子どもたちの心に語りかける必要があると委員会では考えました。そこで、ことに初陪餐への向かう小

な子どもたちのために、児童文学者の斎藤惇夫さんにご執筆願ひ、また教会生活の中で暖かく子どもたちを写し取ってきた田中雅之さんの写真、そしてこの出版に共に情熱を傾けて編集作業を行ってくださった坂口智子さんのご協力をもって『おいで子どもたち』が刊行されました。子どもたちの初陪餐を、そして共に聖餐によってキリストと共につながることを、大人たちが共に喜び心から歓

「女性に対する暴力の根絶を求めて祈る」礼拝

12月1日19時半より、聖アンデレ主教座聖堂で行われたこの礼拝は、東京教区として初めて捧げられた礼拝である。(聖書箇所…士師記19章1節〜30節)

礼拝説教全文

司祭 笹森 田鶴

最初にこの礼拝が行われた経緯をご説明します。

● 毎年11月25日から12月10日の16日間は、1991年に始まった「ジェンダーに基づく暴力反対のために行動する16日間」の国際キャンペーン期間です。

期間中には人権に関わる重要な日があります。初日11月25日は「女性に対する暴力撤廃の国際デー」、11月29日は「国

際女性の人権擁護者デー」、12月1日の今日は「世界エイズデー」、そして最終日12月10日は「人権デー」です。この間、世界各地、国連やさまざまなNGO、NPOでも、世界の聖公会でも様々な形でキャンペーン活動をし、その参加度を毎年各地で高めています。国連の女性委員会の正式なオブザーバーである聖公会の組織、国際聖公会女性ネットワーク（IAWN）、これは聖公会中央協議会（ACC）につながっているネットワークですが、このIAWNも、このキャンペーンに参加しており、ジェンダー（社会的・文化的性差）に起因する暴力がなくするための取り組みや活動内容の分かち合いを継続しています。また日本聖公会でも、女性デスクが毎年各教区の主教方や教区事務所へ、また今年是全国の各教会へ、祈りや連帯への参加を呼び掛けて

迎えていることがその最初の呼び掛けから伝わってきます。そしてこれから子どもたちが迎える様々な人生の苦楽の中でも、必ずキリストが共にいてくださることが聖餐の交わりで経験されるという励ましが心に届く内容です。

尚、『おいで子どもたち』の出版の他、「初陪餐のための祈り」、少年齢が上の子どもたち用の「初陪餐力リキュラム試案（堅信前の陪餐）対

応）、初陪餐届出書サンプルを作成しました。書籍以外の資料はすべて、管区事務所のホームページの「資料」ページからダウンロードできますので、ご利用ください。

また初陪餐の時期については、お子さんやご家族の礼拝への参加や教会での交わりを参考にしながら各教会でご検討ください。目安として学齢以上ということが指針で示されていますが、年齢だけにこだわるより



願うのでした。

● 今日の礼拝に選ばれている聖書箇所は士師記19章です。この物語に登場する女性には名前がありません。名もない女性が、裏切られ、男性の命のために犠牲にされ、レイプされ、拷問を受けて殺され、最後にはばらばらに切断されて、あちらこちらに散らされたという物語です。

● 初めてこの物語に出会ったのは、学生の時でした。とても絵空事とは思えずに、吐きそうになりました。元従軍慰安婦の方々や性暴力に遭っているのに声を出せないでいる女性たち具体的な顔が思い出されました。リアルでした。あまりにも残忍で恐ろしく、悲惨な物語ですから、できればもう二度と教会では読んでは欲しくないとと思われるような箇所です。しかし、この物語は、「このことを心に留め、よく

考えて語れ」と命じます。わたしたちは、この物語で起こったことを心に留め、よく考えて語らなければなりません。しかも女性たちは一言も言葉を発しませんので、わたしたちはこの被害の状況に身を置かなければならなかった女性たちに思いを馳せ、想像しなければなりません。

● この女性が生きていた時代を思い起こします。当時は、王もおらず無政府状態で、少し前の章には、「互いに自分が正しいと思うことを行っていた」と記されています。そのような社会の中で、この側女は生きていました。一人のレビ人の側女としてベツレヘムから、まさに「手に入れた」のがこの女性でした。突然その側女が行動を起こし、主人を捨てて家に帰ることから物語は展開していきます。男性は側女を自分の家に連れ戻そうとしてベツレヘムの彼女の父の家にいき、父親と交渉し、また帰り道にどこに泊まるうかとやりとりをしている時も、男性や父親、また男性の家の言葉は残されていますが、女性の思いや言葉は何一つ残されていません。ずっと沈黙のままです。途中、ギブアの町でようやく男性と同郷、エフライム出身でギブアに滞在中の老人に出会い、その家に滞在することになります。

● 突然この町の悪しき子らの男たちが、家を取り囲み、戸をたたき、叫びます。「家の客を引き出せ、彼を知るだろう」「知る」とは様々な意味がありますが、ここ

では男性への性的虐待の意味と考えられます。そのような下劣なことをこの男性してはならない、と語る老人は、その禁止命令を守るための条件をならす者たちに示します。「さあ、いいか、わたしの処女の娘と、彼の側女、この彼女たちを強姦しなさい。あなたの目に満足していくまで彼女たちにしなさい。」自分の家にいる一人の男性の客にされるのであれば、それは非道であり、もてなす主人としては何としても止めなければなりません。二人の女性たちに対してであれば、それはかつて良き選択となりません。客人を守ったからです。



創世記の口トが自分の娘達を差し出したように、老人は女性たちを差し出すと約束します。そして側女は、彼女をベツレヘムまで迎えに来て、彼女の心に語りかけようとしてくれた男性の手によって、戸口から瞬時に外へ突き出されました。

● 物語は事実を淡々と語り続けます。この側女を得た町の男たちは彼女を輪姦し、一晚中朝になるまでもてあそび、朝になる頃ようやく離します。女性はやつとのことで老人の家の入り口にたどり着き、そこに倒れ伏してしまいます。朝になって、再び旅立とうとした男性は女性が倒れているのに気づきますが、女性に「立て」と命令し、旅を続けようとしませんが、女性はもう語ることはできません。

ん。これまでも何も語らなかつた女性は、すでに自力で動くことすらできなかったのです。男性は、側女を口バに乗せて家に到着します。そして刃物を取り、側女を捕まえ、その体を12に切り裂き、イスラエル全土に送りつけました。まるで自分は正しいことをしたのに、自分にふりかかったことは自分にとつての暴虐であるかのように。そして埋葬もされず、悲しまれもせずに、その死体はばらまかれたのです。しかし、聖書はここで物語を終えることはありません。こんなひどいことはこれまでなかつたと告げた後でこのように言います。「あなた

の心に向けなさい、彼女に対して。それをよく考えて、あなたの気持ちをごこのことに注ぎ、語れ」と命じます。

● これは、大昔に起こった一度限りのことではありません。また、ならずものたちが特別に悪かつたから起こったというだけのこともありません。側女が自分の意志で家に帰ろうとなどとするから自ら招いてしまった出来事でもありません。当時の「常識」がこの出来事を起こしたのです。女性は男性の好きに扱われても当然の、命の軽い存在であるという常識こそが、この出来事を起こしたのです。その後、さらに今も、少女たちへのありとあらゆる暴力は、こ

の士師記の物語につながる出来事として起こり続けています。しかし、それを見なかつたことにするのはなく、光を当て、語るようにと聖書は促します。

● 士師記では、その後イスラエルの民は同じ蛮行をもって復讐を果たします。イスラエルの男性たちのプライドを保つために、さらに女性が犠牲になりました。しかし、心を注ぐということは、全く違う方法であるべきだとわたしたちは今日、覚えましょう。復讐ではなく、二度とこのような女性や少女たちへのありとあらゆる暴力が起こることがないように、自分たちのするべきことを見出すために、この物語にわたしたちは光をあて、語り続けるのです。

● この女性が語ることができなかったことを、わたしたちは語ります。差別されて悔しかつたと、生きる力をすべて奪われたと、言葉が出ないほど恐ろしかつたと、裏切られてもう誰も信じることができなかつたと、体を痛めつけられることがどれ程心を粉々にし、人間らしさを傷が自身の息の根を止めることにもなるのだということ。沈黙は、暴力と復讐を容認することになります。だから、わたしたちは語ります。社会の中で性別が故に虐げられている存在に対して起こるすべての暴力がなくなるために。またさらに現代、女性だけではなく、性的少数者の人びとへの差別が起こっていること

私たちの教会 [24]

ようこそ池袋聖公会へ



池袋聖公会(以下、池聖)は昭和元年の創立です。東京メトロ・要町駅から徒歩1分と交通アクセスが良い、立教大学の最寄りの教会です。常時出席の信徒数は20〜30名ほどです。

池聖の特徴について
前述の交通アクセスの良さや多くの外部団体が池聖を拠点として活動されていること、また家庭的で暖かい雰囲気



外部団体との関わりについて
池聖で月2回、「ビルマの祈りの集い」の方々が礼拝を捧げられています。来日されたミャンマーの少数民族の方々とその家族の人達です。数年前、池聖の御言葉の礼拝の中で、同集いのロン・

信徒活動について
定期的な活動しているグループとしては、マリヤ会、ヨセフ会、お仕事会(裁縫)などがあります。また懇親会が昨年発足し、多くの信徒が話合う貴重な場となっています。日曜学校はお休みにしてありますが、11月の子ども祝福式では、多くの子供たちが参加し豊かな礼拝となりました。



ビルマの祈りの集いの方々

ビック牧師様よりメッセージを頂きました。最近では同集いのソー・バラ・テインさんより、ミャンマーのカルン族がミャンマー国軍から迫害を受けてこられた歴史や現状について、池聖信徒数名が月1回参加しています。



て、池聖信徒にお話頂きました。

それから池聖では、立教大・高生の人達が各種のボランティア活動(総称:若者の会)を行なっています。月2回の



今後の課題について
池聖には交通アクセスの良さからか、教会へ初めて来られる方が時折りいらっしゃいますが、残念ながら、その後池聖に足を運ばれる方が少ないのが現状です。信徒全体で、初めて来られる方に対する思いやりをもっと深めていくことが課題です。

最近では、3教会合同礼拝、外部団体との関わり合いの中で、池聖は外へ目を向ける意識が高まっていますが、さらに池袋の地域の人達への貢献をできることから行なっていくことが必要だと考えています。

(サムエル 天野公成)

「教会問答する会」のご紹介

執事 太田 信三

主講座聖堂活動委員会にて、「教理についての学びを」との要望をいただき、「教会問答する会」を毎月第1・第2土曜日13時からの日程で開始しました。教理というとなかなか感じたり、自分の信仰生活とは少し遠いところにあると思われる方もいるでしょう。たしかに、教科書で教理を学ぼうとするのは難しい用語が登場し、理解するために専門的な知識が必要とされることは否めません。しかし実は教理はわたしたちにとってとても身近なものなのです。



ださる方です。神さまは時に適うようにそれらの求めに回答してくださったのです。

教理とは、この回答を得た人々による証しのことです。ですから教理は、日々神さまに問いかけて、神さまからの声を聴こうとしているクリスチャン皆のものなのです。

そして日本聖公会の教会問答に取り組むとき、なんと誰もが教理

教理とは神さまと教会との会話の記録とも言えます。どんなに有名な神学者も聖人も、私たちと同じように「神さまはどんな方ですか?」「イエスさまはどうしたら出会えますか?」「聖霊って?」「わたしたちの希望とは?」ということが知りたくて仕方ありませんでした。人々は聖書を読み、祈りの中で、語り合いの中で、神さまにこれらの疑問をぶつけ、求めました。神さまはわたしたち一人ひとりの声を聴き、それに応答してく

の担い手になってしまおうのです。日本聖公会祈祷書(258頁)に収められている教会問答は、「教会とは何ですか」という根本的な問いに始まる34の問答からなっています。この教会問答のすばらしさは、問いに対して明確に答えを書いていないところです。一つひとつの問いを神さまに問い続けながら信仰の道を歩むこと、そしてその歩みにおいて、それぞれが神さまと出会い、神さまからの声を

聴き、「ああ、そうか」という頷きをいただくことが大切にされているのです。これらの問いに向き合うとき、だれもが神さまとの会話へと誘われ、教理の担い手となっていきます。さらにこの学びは一人よりも誰かと語り合うことにより深められます。神さまは個人にも、共同体にも語りかける方です。この原稿を書いている段階では、「教会問答する会」はまだ2回しか開催されていません。しかしすでに参加者それぞれが神さまと確かに出会っていること、これほどにも多様に神さまが働かれるのか!ということ、その語り合いのなかで教えられています。

信仰歴の長短、信徒・未信徒、問いません。ルールはただ一つ、聴き合うことです。この交わりの中に、神さまとの出会いの喜びが溢れんばかりにあることを信じています。

※「教会問答する会」今後の予定
1月7、14日「主の祈り」
2月4、11日「洗礼と聖餐」
3月4、11日「わたしたちの務め」いずれも13時〜14時30分
場所は聖アンデレ教会牧師館1階、申し込みは聖アンデレ主講座聖堂まで(定員20名)

《信徒リレーエッセイ》

「諸聖徒まつり」無事終了

東京諸聖徒教会

林 昭子

11月6日、「卒園生や地域のみなさんと共に、教会で楽しい一日を過ごしましょう」との呼びかけで「諸聖徒まつり」が開かれました。

10時からの教会創立135周年記念礼拝は、巡回日でお見えになった大畑喜道主教が司式・説教、福音書・分餐を教区青年会チャプレンの上田亜樹子司祭、補式・分餐を管理牧師の田光信幸司祭により執り行われ、印象的な礼拝になりました。

午後は、諸聖徒教会に拠点を置く教区青年会の参加もあり、来場者の皆さんにはイベント要素満載の3時間を楽しんでいただけでした。礼拝堂では主教様と主教夫人によるお楽しみコーナーも繰り広げられ、子どもたちのパワーを上回るエネルギーが溢れるパフォーマンスで大いに盛り上がりました。すべてに感謝の一日でした。

「CSわいわい@聖アンデレ教会」開催

11月12日、聖アンデレ教会で日本キリスト教協議会（NCC）教育部主催の研修会が行われた。参加者はさまざまな教派から集まった子どもに関わる、また関心のある牧師、信徒を合わせ約40名。



会は13時から聖マーガレット教会の日曜学校式文を使った礼拝に始まり、教話はS

Sネットワークの渡辺康弘氏が担当した。メッセージの内容は「マルタとマリア」の聖書箇所から「よい『おもてなし』とは相手のことをよく知って、相手が一番喜ぶ『おもてなし』をすること。神さまの本当の思い、本当の言葉を伝えにきたイエスさまを迎える一番よい『おもてなし』はその言葉にじっと耳を傾けること。だからマリアさ

者が俳句を作る作業は、ただ、美しい詩を作るのではなく、新しい聖書朗読の可能性を開いてくれます。今まで、み言葉は、「聴く」または「文字の意味を読む」ということですが、日本の俳句の世界では、み言葉は「観る」または「感じる」ものです。まず、聖書の物語を聖書に書かれたある場面と情景を心に描きます。第二に、心に浮かべた聖書の場面と情景を5・7・5の文字に収め描きます。



んはイエスさまに対して一番よい『おもてなし』をした」と語り「私たちはイエスさまの言葉を聞くと同時に、なによりも子どもたちの声を聞く者でありたい」と結んだ。

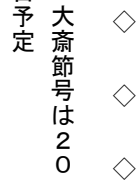
礼拝後は5つのグループに分かれ、それぞれの教会がかかえる問題や独自の活動などを語り合った。「子どもたちにお祈りをどう教えたらいいたろう？」という問いかけに対して「私は友だちや人の名前をあげて、その人のことをお祈りするように優れたキリスト者の俳句とは、5・7・5の文字が終わった時、聖書の物語の場面と情景が心に鮮やかな余韻を残します。

伝えてる」とか、「聖公会では教区で合同のキャンプや子どもフェスをこなっている」と報告すると、「ぜひ超教派でキャンプや子どもの集いができたらいいですね」と盛り上がった。話し合いの後は、シンガソングライターでもある陣内大蔵牧師（日本キリスト教団東美教会）による賛美タイム。自身の作詞、作曲



の歌を含め、楽しい歌のリードでひと時を過ごした。そしてこの研修会の締めくくりとして聖公会の夕の礼拝（笹森田鶴司祭司式）をみんなで捧げ会を閉じた。教会に子どもが集まらない状況に対しては、どの教派も有効な手段を持っていないようだが、教派を超えて協働することが大きな突破口となることを期待したい。

次回、大斎節号は2017年2月26日予定



新しい礼拝の試み
「俳句想礼拝」
司祭 李 民洙（リミンス）
2016年11月12日、午後4時から、聖パウロ教会では第3回「俳句想礼拝」（主催：カフェ・エクレシア）が行われました。（第1回復活節・2014年4月27日、第2回降臨節・2014年12月13日）。最初、礼拝の名前に対する議論がありました。伊藤裕元さん（浅草聖ヨハネ教会）の提案によって「俳句想礼拝」になりました。「俳句想」は「俳句」と「黙想」の意味です。

「俳句」は日本独特な伝統的文学です。「俳句」は、5・7・5の文字の最後にある情景や感覚を余韻として残します。キリスト

礼拝とは文化的遺産によって受け継がれるものです。そして、文化的遺産の中で最も基礎的要素は「言葉」です。そして、その「言葉」は「文字」として残ります。「俳句想礼拝」は、俳句の一文をすらいじれないほど言葉を極めた礼拝です。このような働きを神学的には「土着化」（特に「文化内在化」：Inculturation）と言います。

ちょっと聖書、ときどきユーモア（二十八）

1. サンタの秘密
 サンタクロースの恰好をして歳末の助け合い募金をしている人がいた。その姿を見た幼い子どもがお母さんに言った。
 子ども「ねえ、おかあさん、やっとサンタさんの秘密がわかったわ」
 母親「えっ、いったいどんな秘密がわかったの？」
 子ども「サンタさんって、私たちのプレゼントを買うお金を、こうやって稼いでいたのよ」

2. 流行語の正しい使い方？
 信徒A「この前、いまどきの女子高生が教会に来たんだよ」
 信徒B「それは珍しいね」
 信徒A「それでうちの牧師の説教を熱心に聞いていたから、後で感想を聞いてみたんだ」
 信徒B「なんて言ってた」
 信徒A「イエスさまって“マジ、神ってる。”だって」

3. 税金
 信徒A「最近の税務署は、教会バザーの売り上げにも税金を掛けるみたいだね」
 信徒B「税金をなんとか取ろうと、教会にも厳しくなってきたよね」
 信徒B「ほんと、とんでもないよ。せっかくイエスさまが徴税人に優しくしたのに、その恩を忘れるなんて・・・」